

公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について ～「転倒骨折センター」の開設と許可病床の返還～

1 稲沢市民病院を取り巻く現況

(1) 許可病床数と稼働病床数について

当院は、平成 26 年 11 月に、それまでの許可病床 392 床から 72 床を削減し、急性期病床 320 床で新築移転しました。

令和 4 年 2 月 1 日現在、許可病床のうち稼働病床は、急性期病床 196 床、地域包括ケア病床 46 床の計 242 床になります。残りの 78 床は、医療スタッフの集約のため一時的に休床しその後新型コロナウイルス感染症拡大により現在も休床中の 3 階北病棟 (32 床) と、新病院開院時から休床を続けている 4 階北病棟 (46 床) になります。

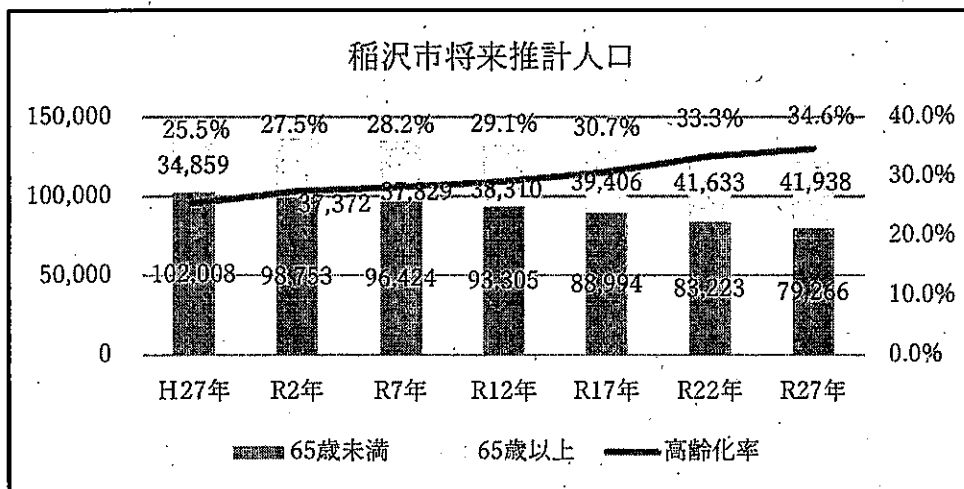
表 1：各年度の 3 月 31 日現在の許可病床数と稼働病床数 (単位:床)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度
許可病床数	392	320	320	320	320	320	320	320
稼働病床数	224	228	228	274	274	274	235	242

(2) 稲沢市の高齢化率の推移

稲沢市の高齢化率は、年々増加しており、令和 2 年は 27.5 パーセントとなっています。今後も増加していく見込で、令和 17 年度には 30 パーセントを超え、その後、令和 27 年度には 34.6 パーセントになると推計されています。

図 1：稲沢市の高齢化率の推移と推計

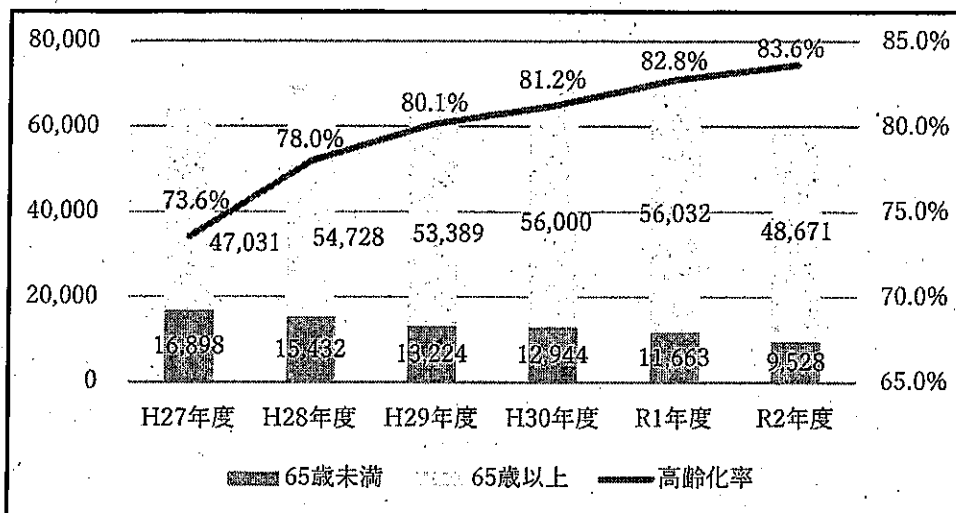


(国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口 (2018 年 3 月をもとに作成))

(3) 入院患者に占める高齢者の割合

稲沢市民病院の入院患者に占める 65 歳以上の高齢者の割合は、平成 27 年度は 73.6 パーセントでしたが、高齢者人口の増加に伴い、平成 29 年度には 80 パーセントを超え、令和 2 年度は 83.6 パーセントとなっています。

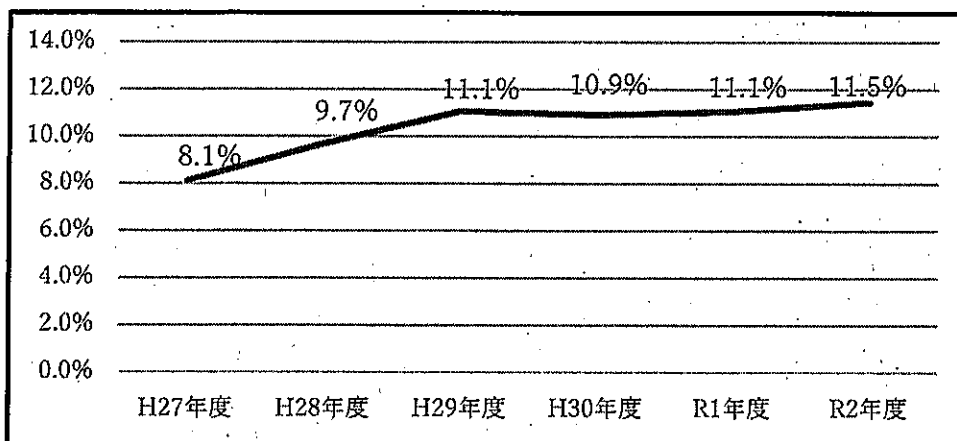
図2 入院患者に占める高齢者の割合



(4) 高齢者に多い骨折の入院割合

稲沢市民病院における高齢者に多い脊椎圧迫骨折、大腿骨近位部骨折、前腕骨折などを起因とした入院患者の割合は、平成27年度は8.1パーセントでしたが、令和2年度は11.5パーセントとなっています。

図3 高齢者に多い骨折の入院割合



2 「転倒骨折センター」の開設について

高齢者に多い転倒等による骨折は多くの場合、早期に手術等を行わなければ、高齢者の日常生活動作能力を低下させ、ねたきりや認知症の大きな要因に繋がります。また、高齢者の場合、慢性疾患（高血圧、心臓疾患、糖尿病、神経疾患）を有していることも多くあり、早期の手術及び術後のリハビリテーションの障害になります。

稲沢市民病院では整形外科と脊椎・脊髄を専門分野とする脳神経外科が、市内及び周辺自治体の患者を受け入れてきましたが、市内には、高齢者の外傷に対応して救急治療、入院治療のできる施設が少なく、高齢の外傷患者は近隣市の病院に搬送されて、手術・入院をせざるを得ないケースが多くあります。

このため、これら2つの診療科を中心に他の診療科や多職種が介入し、骨折に特化した治療を行うだけでなく、①救急受入れ体制の整備、②安全で質の高い手術、③複数診療科による手厚い診察、④リハビリテーションの早期介入、⑤再骨折予防など、積極的なサポートを行う「転倒骨折センター」を令和4年5月に4階病棟に開設する計画を立てました。

3 4階病棟の用途変更と許可病床の返還について

「転倒骨折センター」の開設に伴い、新病院開院時から休床している4階北病棟46床の一部を病室の一部として活用するとともに、4階を一つの病棟として活用し、残りの部分を「その他エリア」として用途変更します。

現在使用している4階南病棟は、個室14室、4人床8室ですが、車椅子や歩行器等の利用により4人床の病室が狭小となっています。このため患者がリハビリ等しやすくなるよう、4人床の5室を2人床として使用します。

また休床中の4階北病棟の4人床の病室7室のうち2室を2人床として、個室18室のうち10室を病床として使用することで、4階全体を50床の病棟として使用します。

残り4階北病棟の4人床5室と個室8室は、リハビリスペースや栄養相談等に、また感染防護具の保存庫などの「その他エリア」として使用します。

上記により、病室以外で利用する「転倒骨折センター」及び「その他エリア」として利用する42床の急性期病床を返還します。

表2 4階病棟の現状と計画

		4人床	2人床	個室	計	病床数
現 状	4階南	8室	0室	14室	22室	46床
	4階北	7室	0室	18室	25室	46床
計 画	4階南	3室	5室	14室	22室	36床
	4階北	0室	2室	10室	12室	14床
増 減		△12室	7室	△8室	△13室	△42床

↑
病床返還

表3 病床機能別病床数の一覧

	病床機能報告 (当該年7月1日時点)				再検証後	H29(国分析時)からの増減
	H29	H30	R元	R2*		
高度急性期	0床	0床	10床	17(0)床	17床	17床
急性期	228床	228床	218床	179(196)床	215床	△13床
回復期	46床	46床	46床	46床	46床	0床
慢性期	0床	0床	0床	0床	0床	0床
休棟	46床	46床	46床	78床	0床	△46床
計	320床	320床	320床	320床	278床	△42床

- * 令和2年6月にHCU(3階北病棟)10床を17床に変更する届け出を東海厚生局に提出したが、令和2年度の病床機能報告においてその17床を急性期として誤報告()内は誤報告の病床数

4 今後の方向性について

今後とも超高齢社会の中で更なる在宅医療や介護体制の強化が必要となるため、「転倒骨折センター」の開設により、当院の訪問看護ステーションや地域の医療機関等との連携を強化し、地域の皆さまに質の高い医療を提供し、信頼される中核病院を目指していきます。

＜ 参考：各病棟の病床数と病床機能 ＞

	現 状		計 画		病床数の 増 減
	病床数	病床機能	病床数	病床機能	
3階南	17床	HCU (高度急性期)	17床	HCU (高度急性期)	0床
3階北	32床	急性期病棟 (休床中)	32床	急性期病棟 (休床中)	0床
4階南	46床	急性期病棟	50床	急性期病棟	△42床
4階北	46床	急性期病棟 (休床中)			
5階南	46床	急性期病棟 (感染症病棟)	46床	急性期病棟 (感染症病棟)	0床
5階北	46床	地域包括 ケア病棟	46床	地域包括 ケア病棟	0床
6階南	46床	急性期病棟	46床	急性期病棟	0床
6階北	41床	急性期病棟	41床	急性期病棟	0床
計	320床	—	278床		△42床

